

報ぜられてある。其の

[illegible][illegible]

若からぬ御方より、
 木料は里幸、引茶、柿油の三品、
 まづ里幸を火で一寸焼いてから、大
 先づ里幸を火で一寸焼いてから、大
 御で、おるし之れに引茶を加へて柿
 油で溶いて、膏藥とす、薄紙に製して
 貼用すれば、日を待て、快癒するも
 疑はれて、御かれたる部分を、鉄にて切
 り、去るべし、と云、後には如何な大火
 災、決して、痕跡をも止めず、元の如
 きなる、善不思識の様なりと



會社製四馬力以下在庫品豐富
 大崎市西區市廳新築四
 丸三商店
 電話西區六九六番
 福岡市博多吳服町 丸三商會出張所

[illegible][illegible]

番景山
 板橋菊松存立
 諸參治々年
 日商藥共
 七也提
 大正九年四月廿七日
 出資總口數拾壹百拾五圓
 大正九年四月廿七日
 法人登記
 煉金組合登記事項變更
 煉金組合登記事項變更

[illegible][illegible]

竈山商店案内

豐後石炭 海產肥料 左官用海草 萬荷受問屋

三谷商店

電話 一〇二二
電路 (一)又(一)

十五日京城府
社通商公司
近江府
地目一級質

サンエス
クオタマン
萬年
釜山本町一

金磨「ルミナ」

氏名住所支
吉京大
恒太郎
九番地
目五番地
森
御以希密著一地方に一ヶ所
を設く大至急申込あれ
併鮮釜山府埋立新
貿易商
千代田商店
電話一五八番

刊月 洋酒・罐詰
電話三五九番
釜田あづまや商店

發行
糖粉・官煙

[illegible]

イト製造合
月七日支配人
社東洋藥房
地目的
酒類
田中釜山支店
燒酎味淋發元

他附帶ノ事業
參月貳拾七日
釜山西町四
電話長一〇六六
振替京六七二五

んであり三越白木
止札を下けた云
朝鮮の吳服大胸に

[illegible][illegible]

ね、ね、ねが其の正の氣を出してや不可ねわ
元の方、斯んな眞似をして居る譯に、
うさし事を言ふやうだが、
アツだつて青表紙の一冊読んだん
吉松、汝へミがあるから少しやア物の理
いひなす、那が解る、君子は久に道を聞い
恐ろしい女目に死すも可なり、云ふ

[illegible]

電話 治町 浪花館
當四月廿三日開演特別大戲
女界統領 京山桃子嬢
之招出樹下 大和堂武郎子 柳田
氣仙錦子 中津仁三郎新裝
氣仙錦子 中津仁三郎新裝
氣仙錦子 中津仁三郎新裝

[illegible]

京城現株 標準

これはする程最後の一戦に到
自日の説法が尻一つになら
とも限らぬ▲現に京城の如
ヶ月の消費品一萬石餘に對
在米の減少は前途不安の念
さしめて居る事夥し▲之
農家の貧情も依然たる處
界の不振を齎らし一般の商

たに起因するらし▲これに
れた仁川正米引締り三作
職退を來した事が現在の常
對する買方の態度を強硬な
めて居るも同時に現況を以
推移するものごせんが氣預
賢擊いて居る正米師も不割
定期に渡すより採算上歩の
米で手放しは退く云

株式系安に不勢

京は九圓五十銭より九圓五
錢さ手堅く大けせり

京城正米市場

倉入米としては高直當時の
品なるを以て此邊依然手
踏踏の振合ひなる一時頭
みせし繰糸の短短も紡績側
之を拒絶され休言中の氣味

商引續き立會へ運品に至る
 つ株式も人氣更に惡化の向
 なり延びて順米も再び不勢
 き大勢兎角不良の舊先地
 米の割次到着を見つゝある
 此は精米筋の買氣衰へた
 流も品ガリスレを斷に不測
 値に煽はるし富市場も次第
 氣冷靜に復して今因は也緊

又復百丁方を引
げ漸く各地との
衡をも保つに至れり
白米引弛るむ
原田の綿底も高値に刺戟さ

米市中、卸値も地方官米の
寄き各地、正米の反落移りに
は四五十銭安の一等米五十
見當を唱へられる。而も既
く各精米所の原料も附他段
高の折柄にて此際名目の値
少の多少の値開きは兎が
く安値は五十圓五十銭處
に達せん向もあるしく豫報の

株一般陰ノ極

價株式現物問屋
 三ツ輪株式店
 山田幸七
 京師明治町二ノ三〇
 電話二〇九九番
 自宅一六九二番

仁月正米市場
密買方振はさるも正米市場は
その在米潑を櫛に手放す向な
三等神力上物四十二圓三十三
圓にて弗弗手合行はれたり
線布二十圓割乎
浮動狀態を呈せる當地綿布
は綿糸操短運動の失敗に加

式棉花其地の商品にも膨張
ばはして其結果我生糸界の悲
に高まり延て株式界の人氣
に惡化せんもの傾きとなり休
の三品又暴落の報を入る、
今朝は人氣強が上にも沈衰
て三十一七九物は二十圓二三
見當を唱るも更に買入なく
二十圓を削削さざれば上

1

育
にせど
沢山ゆ来

ばいじん毒病

若し前述の証言に據へては、
●あらゆる沿道に衣
●思召は免に角一
●本舖 大阪心齋
●製菓所 大坂内本
●町二丁目 有田

支	龍山	梁兵	切前	釜山	大
仁川	官町	二丁	目	鎮南	道
人郎月町	常事	場通	下條	元山	道
后	晉州	大宏	洞	元山	道

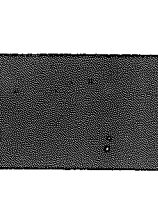
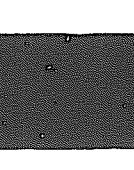
東京大阪にせう
表記支店にて有田製
近江 小笠原川田 日田 油
和歌山 八幡川田 日田 油
奈良 八幡川田 日田 油
奈良 八幡川田 日田 油
奈良 八幡川田 日田 油

因泉	月南	福生	日沙	河龍	明龍	金生
島土	道中	山比	山而	山節	方生	生龍
土生	四木	木重	川川	由山	由山	由山
口如	口如	口如	口如	口如	口如	口如
性大	粉粉	久甘	二程	作澤	行運	行道
以而	可身	不白	日深	田柳	粉方	粉方
大山	中亭	八日	號水	三正	來來	來來
口如	口如	口如	口如	口如	口如	口如
合中	大開	路香	大仁	平元	云雲	雲雲
中內	東建	建建	金金	山山	山山	山山
中內	建建	建建	金金	山山	山山	山山
中內	建建	建建	金金	山山	山山	山山

[illegible][illegible]

音 朝鮮 京城 南大門 外
台灣 台北 趙師範 莊
支那 青島 新市 增通

有田 盛に衣ると
にせ 山来る

A dark, textured horizontal band, possibly a book cover or a close-up of a material. The texture is grainy and uneven, with some lighter and darker patches. There are some small, indistinct shapes that could be characters or symbols, but they are not clear enough to transcribe.

江見水陰

遊子と親子との涙物語りは、
「ふ切切きいた。」
では、さうもちゃん、伯母に
お目も掛つて、自動車^{自動車}の番屋が
六〇七號と知れたのをお話して
それと如何云ふ風にして敵を
探ひ出して好いか、御相談を願
ひませう。」
「然うです、では姉妹^{姉妹}、伯爵^{伯爵}の
御殿^{御殿}連れて行つて下さいな」
姉妹は泣き顔を化粧^{化粧}のふに一寸
間を取つた。
然うして打揃つて伯の書齋^{書齋}に
入つて見る、其所^{其所}にはあられな
他の室を採らしたぐさ、見や
ら……」
「姉妹、乾く然うでせうよ」
「敵を返さなく何こま……成は
又姉ちゃんも、越せまか……」
「でも何は何とでもう義の手を
ぶひ出してはしないでせう。井の
眼の空家で委曲^{委曲}の目に達しは
たので、表向からと彼奴は
罪に成るなら、許さう……」
「そんな事を氣にするやうな奴
なら始末が好いのですが……何
處まで彼奴は屬ないしいか知れな
い」
「あら姉妹、伯爵の方が、ア、
化映か山へ霞か、一層かな
や、井の處に屬へるなといふ
春風^{春風}、言ひ老に、詠言^{詠言}す
我讀まはる島屋^{島屋}に春の雨
汽車寄れば人夫現れ、春の盡
矣る山をめぐれる、島屋の巢
矢人に寄られし、降島屋の巢
雨吸へ、乾ける石を掛樹
橋の下へ流れ、合ふ河、柳の芽
春雨や露の中、の希望所、
島人の我に合ふ時、時や暖き
牡丹や此の期内の鶯、鶯根
連翹や色紫、壯て國王の兒
稚子啼くや大體、よと桑畑へ

[illegible]

日報詞苑

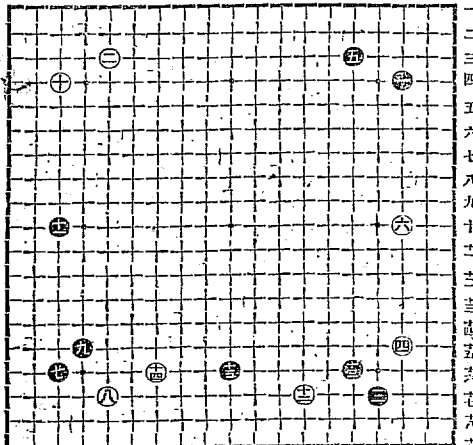
四月一日、雨降の列車に投じ藤川に向
中村紫光(京城)

花吹かん山へ霞々一路かな
金調子

芽柳や御舎の前にあたる山
春雨や翁し老に人厭さず
我讀まばは高聲耳に響の隨
汽汽車をば人衆れぬ春の盡
谷間に空られし時鳥啼入る
石工五重
雨吸へて乾ける石や芽柳
橋の下に流れ合ふ河や柳の芽
春雨や我家の中の手使所
吾人の衣に合わせた時計や嘆き
芽牡丹と此の廊内の繪装扇根
連綿や色翠ねて國主の完
雄姿くち大目録あつて
雄雉啼くや大勢ゆるり桑畑へ
瓦も一葉雨に啼く雄雉す
なご五十十年前の子孫さす
盆の花や鮮人に似し顔形
芽柳の青車待椅子願ひ揭示


和の友人に本年
三月廿三日あり
一時年報終了
都合よく失せ
か今にも涙なり

親よりさらざるもの道なり正面に
り細よりの家婦人にて好むなら
説教料理の心得十分なりとなたかを
につけて呉れさせ給うたり(二)
男女・御座候時になりなり
毎天上天まで罪なきみな除
は海原に眠しますきものから流
都でぞめしたすもよしとしたす
で御亭御住所を偽書くたまる
月十一日に諸新聞ある演習場
湯田に住み奥女内膳人男
沐浴する其時女中に地獄女學
人居に上り捕らゝりて洗ふ彼
生手いと呼び男女交はりませ
ばその女に男子を入れますは如
念なく由なるやと問われしが主人
命をみて謝にいれたるこのこ
男女別を識るの必要なきこと
が資金会ニ九十九時十五分
ハリ電燈台並道自他路にスチ
ヤン機付置出所に於て倒死取下
むヲツキは頭のみ出て黒色の

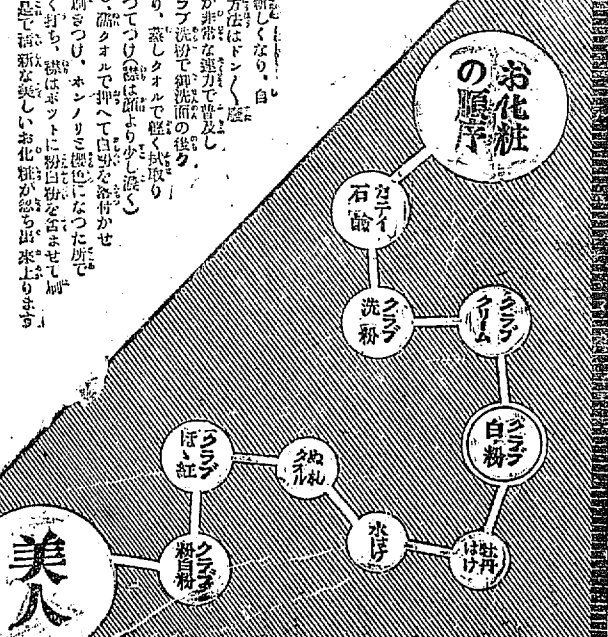
[illegible]

クラフ 煉白粉
 クラフ 固煉白粉
 クラフ 水白粉
 クラフ 粉白粉
 クラフ はき白粉
 クラフ 打粉白粉
 クラフ 紙白粉
 クラフ 白粉錠

新あたしと清きよく美うつくしく



今日は所謂改選の新時代、凡ての事が新しくなり、自然な化粧法の如きも時代改良の不完全な方法はドン／＼廢して、クラフ脱線式の全体的なお化粧法が非常な連立で普及して居ます。其の方法は先づクワイバ、酸ミクラフ洗滌で御洗滌の儘にクラフ美身クリームを顔から鼻へよくつけて磨り、酸ミクアルで軽く拭き取り、クラフ白粉を掌に取つて指先でよくはつて顔を塗りつけて洗ひ、洗滌して白粉を遙はし水磨毛で干し、臨クアルで押へて白粉を落れさせ、爪押刷で白粉を遙はし水磨毛で干し、臨クアルで押へて白粉を落れさせ、クラフ頬紅を目の下から頬にかけて薄く磨きつけ、オノノリ色微色になつた所で、クラフ粉白粉をセーム庫につけて顔に磨く打ち、擦は家ツトに粉白粉をまぜて刷いたセーム庫で乾く打ちますので、是で清新な笑しのお化粧が認められ来上ります。



お化粧

粧新

美人

御召工合
良き靴

定價表
足箱券
婆二錢


東京芝區根田伏見町角
内田靴舗店
電話五五 振栗六七



開業明治貳拾九年
由中呂通信販賣之元祖

[illegible]

著章山笹
行發店書屋ボツウ
XXXXXXXXXXXX



新案獨逸
イロハ辞典

鮮語自在

錢十六金價定
 (錢貳料送)
 スーロク製上
 錢十八金價定
 (錢四料送)
 元賣發
 社報日城京
 部理代

佐藤病院
院長 佐藤小五郎
入院應需
内科
小兒科
入院隨意
毎日五名定員

イケダ小兒內科病院

東號三縣男服店前へ入る加町四丁目 電話病室 〇三〇四
 郵便 〇三〇四

資本金	五千萬圓
積立金	壹千八百五十拾萬圓
總預金	參億七千萬圓

東京本町一丁目
 京橋二丁目六番地
 臨三三番地

大島紳商 勝子子店
 支取人 竹村利三郎